



Doctors Message

いきいき健康術 第110回

町立病院・診療所の医師や専門職員が
健康情報をお届けします。

『肝臓疾患～自覚症状が出る前に～』



みつよし ひろのり
光吉 博則 医師
京丹波町病院内科
(南丹病院 肝臓内科部長)

肝臓は「沈黙の臓器」と呼ばれています。それは、肝臓が食べ過ぎや飲み過ぎの時も文句もいわず一生懸命に頑張ってくれるからです。ところが、一度肝臓が弱ってしまうと元の状態には戻りません。体がだるく食欲がなくなり、ひどい場合は黄疸や腹水が出てきます。このような症状が出ていれば、肝臓は硬く岩のように変形し、肝硬変と呼ばれる状態です。肝硬変症はすべての肝臓病の終着駅です。

アルコール、ウイルス、生活習慣 慢性肝臓疾患のさまざまな原因

慢性肝臓疾患にはたくさん原因があります。アルコールの飲み過ぎは言うまでもありません。代表的な疾患はB型肝炎やC型肝炎です。これらのウイルス性肝炎は気づかない間に肝硬変や肝がんへ進行する怖い病気です。今までのウイルス性肝炎の治療はインターフェロン注射が欠かせませんでした。副作用が強いため高齢の患者さんには使用できませんでした。ところが、最近では副作用が少ない薬が開発され、高齢の方を含め多くの患者さんが恩恵を受けています。

原因が不明の肝臓疾患もありますが、さまざまな治療法が研究されています。大切なことは治療を受けることで肝硬変や肝がんを予防することです。

肝がんの原因で一番多いものはウイルス性肝炎です。ところが、最近はその以外の原因から肝がんを合併

する患者さんが増えています。その原因の一つに生活習慣病の増加が考えられています。肝臓は生活習慣を反映する臓器です。

脂肪を含む食事をたくさんとり、体を動かす機会が減ると脂肪肝になります。単純な脂肪肝であれば心配ありませんが、なかには肝硬変や肝がんへ進行する人もいます。このような脂肪肝は非アルコール性脂肪肝炎(NASH)と呼ばれています。

血液検査で見える肝臓の病気 定期的に健康診断を受けましょう

肝がんの治療にはいくつかの方法があります。最も確実な方法は手術ですが、体には一番負担が大きい治療です。少ない負担で済むカテーテル治療やラジオ波焼灼療法などの内科的な方法もあります。いろいろな方法の中から個人に適した治療方法を選ぶことができます。

肝臓の病気は血液検査で偶然見つかる場合がほとんどです。症状がないからといって安心は禁物です。きちんと健康診断を受けて、肝臓に異常が見つければ早めに受診してください。

光吉先生は毎週火曜日の午前の内科外来担当です。
京丹波町病院(電話)0771-86-0220

町立医療施設の敷地内は全面禁煙です。ご理解とご協力をお願いします。